

令和5年度第1回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 令和5年5月18日（木）午前10時～11時

場所 伏見区役所 1階ホール

1 議題

伏見区役所の令和4年度の実績及び令和5年度の実績予定

- (1) 三所共同事業について（伏見区民活動支援事業、伏見連続講座）
- (2) 区役所・支所の主な取組（伏見区役所、深草支所、醍醐支所）

2 発言要旨

伏見区長の開会あいさつ

- ・ 3年間に及んだコロナ禍だが、今月8日で感染法上の位置付けが5類となるなど、国の対策も大きく変わった。地域の取組が3年ぶりに開催される姿もたくさん目にしており、大変嬉しい。引き続き感染防止に注意を払いながらも、地域活動や社会経済活動を積極的に行っていくことが大切であると実感している。
- ・ 皆さんも御存知のとおり、ここ伏見には歴史的文化的価値のある場所が数多くある。産業の面でも、酒造業や、「らくなん進都」の先端企業など、数多くの企業が立地している一方で、耕地面積が市内第1位となっており、農業が盛んな地域でもある。
- ・ 何より、ここにお集まりの皆様のように、伏見に愛着を持ち、地域のためにと活動されている方がたくさんおられる「地域力」が最大の強みだと思っている。
- ・ この区民会議は、皆様に御議論いただき令和3年度に策定した「伏見区基本計画」を推進するためのものであり、令和7年度までの5年間の計画となるため、今年がちょうど折返しの年となる。
- ・ 今年度から、私も含め3区長全員の顔ぶれが変わった。北條昌代 深草担当区長、横山克久 醍醐担当区長とともに、職員一丸となって伏見のまちづくりに全力で取り組んでいく。皆様方の引き続きの御理解、御協力をお願い申し上げます。

橋爪座長の開会あいさつ

- ・ コロナの5類引下げで、状況が大きく変わってきた。伏見の場合、かなり観光客が戻ってきているのではないかと思います。
観光客、我々伏見の地域、そして観光事業者がよい関係をもたなければならない。京都市の現在の観光振興計画も、私も議論に加わって策定した。市民と観光客、観光事業者が三方良しと、それぞれがまちの発展に対して貢献できるような観光のあり方、持続可能な観光のあり方を京都モデルで考えていくので、伏見も重要な場所になると思っている。
- ・ また、伏見は脱炭素先行地域のモデル地区となっている。環境に関する様々な施策や事業において、京都は先進的な取組を進めているが、さらに脱炭素ということで、エネルギー問題やリサイクル、リユースを絡めた画期的なことをしていこうとしている。
今後、環境分野において多くの視察が京都・伏見を訪れることになる。我々も、環境先進都市の誇りを持って参りたい。

- ・ 私が、誘致以来関わっている「大阪・関西万博」について、伏見区においては淀川舟運を復活させるということで、国をはじめ京都府、京都市が取組を進めている。
枚方～伏見間は、水深が浅く、相当^{しゅんせつ}浚渫しなければならぬが、万博までに中型船が通れるようにとの目標が掲げられている。
長く歴史の中で重要であった東海道の一部、伏見から大阪を結ぶルートが、今回の万博を契機に復活するということだ。どのような事業が展開されるか、期待を持っていただきたい。
- ・ 「伏見区基本計画」は、2025年までの目標を定めたものだが、この先どのような伏見区をつくっていくのか、この場でも議論させていただく。我々の世代から次世代に向けて、国全体で少子高齢化が問題となっている中でも、未来に希望を託せるような会議にしていきたい。皆様によりよく申し上げる。

意見交換（三所共同事業について）

橋爪座長

- ・ 伏見区区民活動支援事業について、審査委員長を務めていただいている加藤先生から御意見ををお願いしたい。

加藤委員

- ・ 昨年度の応募が38件、今年度は50件ということで、本当にありがたいことだと思っている。改めて、区民の皆さんに説明責任が果たせるよう、しっかりと審査、採択をしていきたい。区民活動支援事業について、申し上げたいことは3点ある。
- ・ まずは、重点支援枠の活動について、子ども・高齢者・防災に加えて若者・地域経済とテーマが挙がっているが、昨年度採択した活動では異分野をつなぐ特色をもった取組が出てきたと感じている。
向島の要援護者による地域防災、久我・羽束師の多世代交流、春日野学区の親子ですごろくをしながら防災を学ぶ活動、小学生と企業がコラボする子供が取材して大人が読む地域しんぶんの活動、子育てで孤立しがちな方へママ友をコーディネートする活動、など非常にユニークなボランティアアクションが挙がっていた。
それぞれの分野を、例えば「防災」などのキーワードでつないでいくところが素晴らしいと思う。
「楽しい」こと、「異分野をつなぐ」こと、参画する敷居をぐっと低くし「私でもできる」と感じさせること、この3つが非常に重要ではないか。
- ・ 次に、申請書の見せ方が皆さんとても上手であるということ。以前から申し上げているが、申請書の書き方の支援、つまり卵の活動を温めたり育てていくことも含めて大学をもっと活用したらよいのではないかと感じている。各大学には、市民活動を支援する機能がある。大学と地域の自治会をしっかりとつなげていければ、もっと取組が広がる。
- ・ 最後に、国の施策として、今年度中に福祉施設は災害時等でも業務を継続していけるよう計画を立てなさいということになっている。その業務継続計画策定の中では、しっかり地域と連携していきなさいということが言われている。
少し話が飛躍するかもしれないが、小中学校にも同様の防災計画が必要になってくるだろうし、地域の自治会等との連携はこれから非常に重要になってくる。
異分野をつなぎ、それぞれの分野の持つ力を相乗させていくことで、新しい区民の力を引き出

していくことが今後ますます重要になってくるのではないか。

橋爪座長

- ・ 区民活動支援事業は、長く継続しており、伏見区の事業として区民の方からも評価されている事業だと思う。今後も取組を進めてほしい。

意見交換（区役所・支所の主な取組について）

橋爪座長

- ・ 三所の事業について、今後もきっちり取り組んでいただければと思う。
- ・ その他、団体の活動内容などについて、アピールされたいことがあれば御紹介いただきたい。

岩井委員

- ・ 醍醐コミュニティバスは、2月に運行開始から20年を迎えた。20周年記念のイベントには、門川市長、西脇知事をはじめ、各団体の関係者の皆さん200名に参加していただき、盛大に開催できた。
- ・ 平成9年10月に地下鉄東西線が開通し、醍醐地域から京都市中心部への交通利便性は大きく向上したものの、市バスの運行経路の見直し等があり、駅やバス停から離れた場所に多くの公営団地がある醍醐地域では「地域の足」への需要が高まった。
平成13年9月に醍醐十校区自治町内会連絡協議会と女性会が中心となり、「醍醐地域にコミュニティバスを走らせる会」を発足させ、各地域の住民の意見をワークショップ形式で集約して運行開始を目指した。
準備期間に約3年を要したのち、平成16年に運行を開始し、地域、企業、団体、病院で一部の経費を分かち合う市民共同方式という画期的な枠組みで事業を継続してきた。
- ・ 乗客1,000万人を目指してこれまで事業を行ってきた中で、今年2月にその悲願を達成できたことは大変感慨深い。現在の延べ乗車数は、令和5年4月現在で1,010万人であり、1日平均1,200～1,400人となっている。その約9割が敬老乗車証及び福祉乗車証による乗車となっている。なお、コロナ禍では、約2割の利用者数の減少となった。
このような状況であるが、「醍醐コミュニティバス市民の会」は、人と人、心と心のつながりを大切にしながら安全な運行を進めていくので、引き続き皆様の御支援と御協力をお願いしたい。

村井副座長

- ・ この場をお借りし、私からも皆さんに御礼を申し上げたい。これからも頑張っていくのでよろしくをお願いしたい。

橋爪座長

- ・ 20周年、様々な御苦勞があったと思う。これからも頑張っていたきたい。

村井副座長の閉会あいさつ

- ・ 本日は、橋爪座長をはじめ皆様お忙しい中、区民会議にお越しいただき御礼申し上げます。
先ほど、今年度の事業の取組について報告を受けたとおり、伏見区基本計画の実現に向けては、

どの事業も重要であり、引き続き充実した取組となるよう進めていただきたい。

- これからの伏見のまちづくりにおいて、ここにお集まりの皆様方が大変重要な役割を担っている。伏見区に住んでいてよかったと思ってもらえるまちになるよう、これからも御協力賜りたい。